

【目的】 住まいの手入れに関して花王に寄せられる相談の中で、消費者が困っていることの一つにカビの除去があげられる。そこで住まいのいろいろな場所や材質にみられるカビを効果的に落とすとともに、材質への影響も考慮し、適切な手入れ方法について検討した。

【方法】 畳や木、タイル目地など10種類の住建材に、供試菌として一般的にみられる *Cladosporium* (クラドスポリウム属) を用い、その懸濁液を塗布後、30°C、100%RH 下で2週間～4ヵ月間培養した。その間カビの繁殖状況を観察、着生を確認後、市販の一般住宅用洗剤、研磨剤、次亜塩素酸ナトリウム主剤の漂白剤(有効塩素5%)を用い、処理濃度や時間を変えて除去効果および材質への影響を比較した。評価は処理前後のカビの有無、材質の変化を観察することによった。

【結果】 ①カビの手入れに関する消費者相談件数は夏場に多く、居間の畳や壁、浴室のカビの落とし方について問合せが目立つ。②カビの繁殖の状況は材質の種類により異なる。表面が粗く、吸湿性の高い畳やベニヤ板等では基材内部への生育も著しいが、平滑な塩ビパッキン等での繁殖は遅い。③カビの除去効果は全ての材質に対して漂白剤が最も良かった。但し、畳や木質は漂白剤の2倍希釈で材質の変色がみられ、5倍希釈の5分湿布でもやや影響があった。これらの材質は5倍希釈の雑巾拭きで変色も目立たず、他の洗剤よりも優位な除去効果が得られた。④塩ビ壁紙、パッキン等は材質への影響がほとんどなく、漂白剤5倍希釈で10分湿布後拭きとる操作でほぼ除去された。また研磨剤でもかなりの効果が認められた。